

編集 後記

暖かな日差しに春の訪れを感じる今日この頃ですが、皆様におかれましては新年度を迎えお忙しい日々をお過ごしと思います。with コロナ生活も3年目に入り新しい生活様式に慣れてきた部分もある一方で、COVID-19の長期的流行による見通しが立たない業務負荷に加え、最近では地震やロシアのウクライナ侵攻などの世界情勢の不安定さも重なり皆様のお疲れも相当なものではないかと拝察いたします。

さて、第69巻4号では、原著論文3編、公衆衛生活動報告1編、資料1編が掲載されており、その内容は多彩で示唆に富んだ内容になっております。原著論文はまず、平成30年7月豪雨災害の被災市町村における要介護認定率の被災前後の変化と関連要因について検討した論文です。豪雨災害により、軽度要介護高齢者において介護保険サービスの需要が高まる可能性が示唆されました。次は、酸素療法、夜間ケアを必要とする障害児の母親の睡眠と心の健康の実態を調査した論文であり、在宅で酸素療法や夜間ケアを必要とする障害児の母親に対する心身の健康支援が重要であると示唆されています。3番目は、幼い子をもつ母親を対象としたCOVID-19流行期に新たに生じた心理的苦痛とその関連要因を検討した論文です。幼い子をもつ母親の精神健康はCOVID-19流行期で悪化しており、本研究で示された心理的苦痛の関連要因を踏まえた子育て支援・療育支援の強化が各自治体において早急に望まれます。公衆衛生活動報告は、COVID-19流行下での地域食堂の活動プロセスとその効果を記述した論文です。孤立や孤独を防ぎ食と健康を守る地域食堂が、住民ボランティアの力でステーキホルダーを巻き込み課題解決を図りつつ感染症対策と食支援ボランティア活動を継続したプロセスが丁寧に示されており、興味深い実践報告となっております。資料は冬期における戸建て住宅各室の室温と外気温の実態とその関連性を調査した論文で、その結果は健康で快適な住環境整備に活用されることが期待されます。

昨今、対面の各種学会、研修会などが限られる中、毎月発刊される本誌は最新の公衆衛生実践、研究知見などをタイムリーに発信し議論できる場となるよう努めております。皆様におかれましては、お忙しいとは思いますが、ぜひ積極的なご投稿を心よりお待ちしております。(月野木ルミ)

次号予告(第69巻・第5号)

総説

父親の育児参加が母親、子ども、父親自身に与える影響に関する文献レビュー……加藤承彦, 他
ヘルスプロモーション施策における社会環境整備の視点: タイ・スウェーデン・イングランド・アメリカ・日本のナラティブレビュー

……………西尾麻里沙, 他

原著

継続支援システムを取り入れた自治体における保健師の母子保健活動への認識の変化: フィンランドのネウボラの基盤システムの導入

……………横山美江, 他

軽度不調に関する質問票と健康指標との関連: 日本人を対象とした疫学文献レビュー

……………東泉裕子, 他

通いの場づくりによる介護予防は地域間の健康格差を是正するか?: 8年間のエコロジカル研究

……………辻 大士, 他

メタボリックシンドロームと脳卒中罹患: 18.6年間のコホート研究……………齊藤 功, 他